

福山駅前広場協議会

説明資料

2021年（令和3年）10月19日

福山市 建設局 福山駅周辺再生推進部 福山駅周辺再生推進課

1. 福山駅前広場整備の歴史

● 1888年（明治21年） 町中心部への鉄道敷設計画

1888年（明治21年）に山陽鉄道会社が設立され、提示された路線計画が福山城の石垣を削り、城下町の中央を貫通する計画であるため、地元住民から「町の繁栄を阻害する」との意見があり、これに同調した旅館業者、人力車夫などからも「旅館の宿泊者がなくなる」「人力車を利用するものがなくなる」などの反対の声があがりました。しかし、上京中の学生有志が帰郷し、「福山町の将来の発展を約束させる道は一日も早く鉄道を建設することにある」と反対住民を説得し、町の立場を積極的に支持したため、以降、用地買収が急速に進みました。



● 1891年（明治24年） 山陽鉄道開通

江戸時代に水野勝成が拓き、城下町として栄えた福山は、1889年（明治22年）に福山町となり、1891年（明治24年）に山陽鉄道が開通し、福山城の城内には内堀や外堀の一部を埋め立てて福山駅が設けられました。



引用：パンフレット【新たな時代の扉を開けて福山駅前広場（飛躍）】

1. 福山駅前広場整備の歴史

● 1945年（昭和20年） 戦災からの復興

福山駅を起点とした鉄道輸送網の発達などにより、陸上交通の要衝となった福山は、1916年（大正5年）に市となり、備後地域における広域交流拠点都市として成長しました。しかし、1945年（昭和20年）、空襲により市街地の約8割を焼失しました。

戦後、市民の旺盛な復興意欲に支えられ、いち早く戦災復興に着手し、大規模な土地区画整理事業によって、現在の原型となる福山駅周辺の市街地が形成されていきました。



● 1975年（昭和50年） 新幹線の開通と新駅舎の完成

1971年（昭和46年）には山陽新幹線の建設に合わせて、市街地を南北に分断していた山陽本線と福塩線の高架化に着手し、1975年（昭和50年）の新幹線の開通に合わせて、在来線を2階に、新幹線を3階にする国内初の二重高架式の福山駅が完成しました。



引用：パンフレット【新たな時代の扉を開けて福山駅前広場（飛躍）】

1. 福山駅前広場整備の歴史

●都市交通を取り巻く環境の変化

福山駅の南側は本市の中心的な商業地として発展し、備後地域の玄関口としての都市基盤整備が進められてきました。その間、福山駅前広場は何度か部分的な改修が行われてきたものの、山陽新幹線の開通やマイカーの急速な普及など、都市交通を取り巻く環境の変化に対応できず、次のような問題が生じていました。こうした問題を解決するため、2000年（平成12年）に「福山駅周辺整備推進協議会」を設置し、2002年（平成14年）に「福山駅周辺整備の基本方針」を取りまとめました。

バス・タクシー・一般車のふくそう

駅前広場には、バス・タクシー・一般車など様々な交通が流入していましたが、それらの交通動線が完全に分離されていないため、広場の中央部分では交通のふくそうが生じ、大変危険な状態でした。



進入してきた方向に戻れない送迎場

駅前広場で送迎を済ませた車は、Uターンできないため、西側街区の狭い道路を大きく迂回しなければ、元来た道に戻れず、とても不便でした。



不便で利用しにくいバス乗降場

バス乗場は広場の東西に分散していたため、初めてバスを利用する人はどちらのバス乗場を利用すればよいのか分かりにくい状態でした。バス降車場は駅前広場の外に設けられており、バスとバスとの乗り継ぎや、バスと鉄道との乗り継ぎは不便でした。



危険な右側乗降式の送迎場

送迎スペースが不足しており、迎えの車が多い夕方のラッシュ時には、大変な混雑が生じていました。さらに右側の歩道に寄せて停車する形式となっていたため、助手席側からの乗り降りは大変危険な状態でした。



引用：パンフレット【新たなる時代の扉を開けて福山駅前広場（飛躍）】

1. 福山駅前広場整備の歴史

●外堀遺構の発掘

駅前広場整備に当たり、2006年（平成18年）に行われた試掘調査により、福山城外堀の石垣が確認されました。

2007年（平成19年）に行われた第1次発掘調査では、福山城の外堀石垣の一部が良好な状態で発掘され、この石垣遺構をめぐり、同年12月に市民団体から遺構の保存・活用を求める要望書と署名が提出されました。

さらに、2008年（平成20年）に行われた第2次発掘調査では、舟入遺構、二重櫓台が発掘され、福山市文化財保護審議会から、これら福山駅前広場で発掘された福山城遺構の保存・活用についての意見書が提出されました。

このようなことから、交通結節点としての安全性や快適性などの機能を確保したうえで、福山城外堀遺構の保存・活用を図るため、地下送迎場の位置・形状の見直しを行いました。

見直し案の検討にあたっては、2008年（平成20年）に「福山駅前広場整備に関する専門委員」及び「福山駅前広場整備に関する懇談会」を設け、様々な意見を聴き、2012年（平成24年）に現在の駅前広場が完成しました。



第1次発掘調査

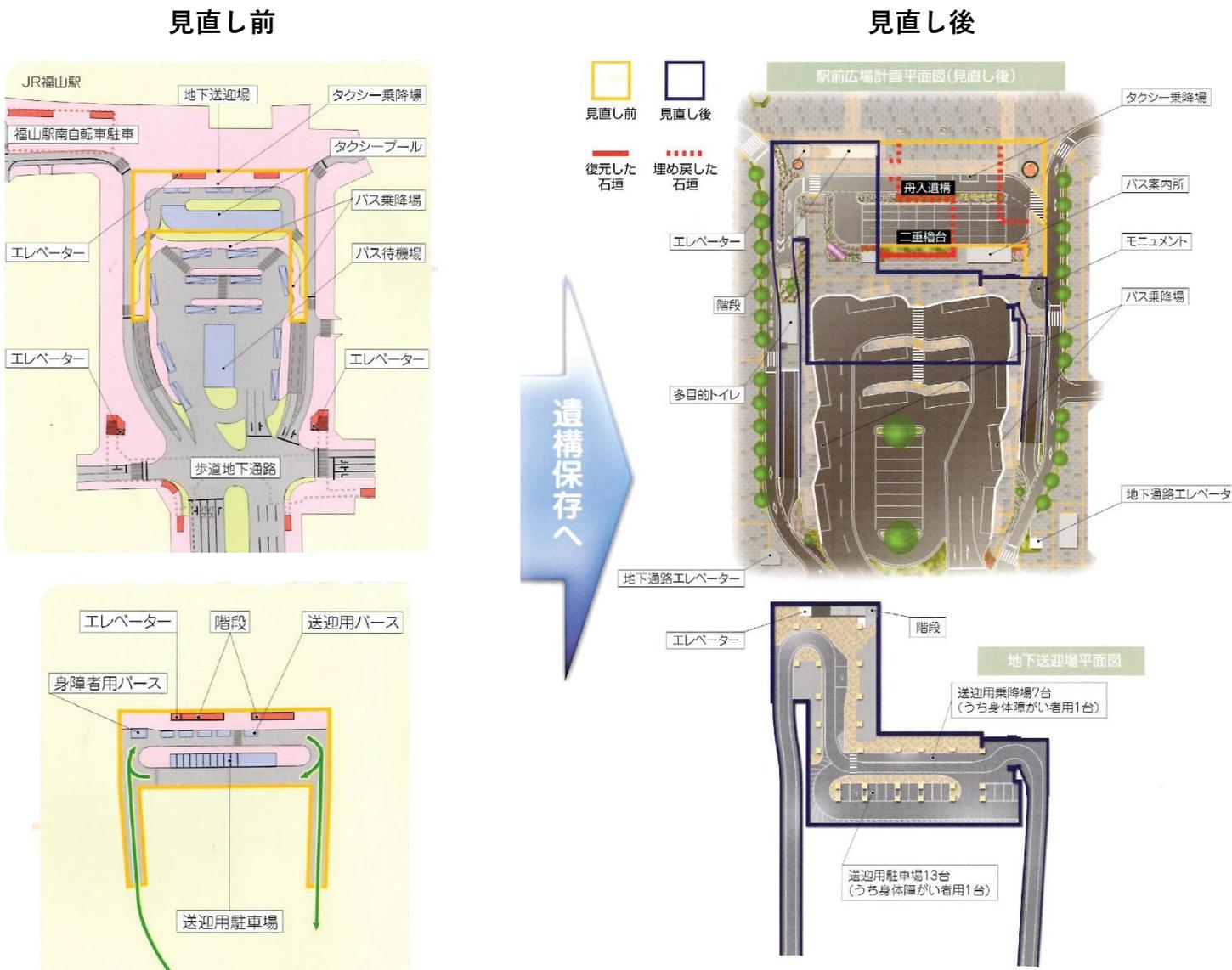


第2次発掘調査

引用：パンフレット【新たなる時代の扉を開けて福山駅前広場（飛躍）】

1. 福山駅前広場整備の歴史

●地下送迎場の位置・形状の見直し



1. 福山駅前広場整備の歴史

新たな福山駅前広場

福山駅周辺整備の基本方針

- 駅前広場の構造形式
ユニバーサルデザインに配慮する。
- 駅前広場のレイアウト
公共交通を優先的に配置する。
- 駅前広場周辺の交通処理
周辺道路の機能強化により、駅前広場への交通負荷の軽減を図る。
- 駅前広場整備の手法
周辺の都市基盤整備の進捗状況に合わせて段階的に取り組む

交通結節点機能の強化

- バス乗降場を広場中央に整備
 - ・バスとバス、バスと鉄道との乗り継ぎ利便性の向上
 - ・広場外のバス降車場が原因による交通混雑の解消
 - ・乗場が分かりやすくバス利用者の利便性が向上
- バス・タクシー・一般交通の動線を分離
 - ・安全性の確保
 - ・広場内の交通混雑の低減
- 地下送迎場の整備
 - ・送迎機能の強化・安全確保
 - ・広場内でのUターンの実現

計画諸元

- 駅前広場面積：約14,000㎡
(地下部分 約3,300㎡進入・退出路含む)
- 構造：地下1階

区 分	数 量	備 考	
バ ス	乗降バス	12 バース	
	待機バス	8 バース	
タ ク シー	乗車バス	4 バース	
	降車バス	3 バース	
	タクシープール	40 バース	
地下送迎場	送迎用乗降場	7 台	身体障がい者用 1 台
	送迎用駐車場	13 台	身体障がい者用 1 台
地下通路エレベーター	1 基		
地下通路エレベーター	2 基	東側1基、西側1基	
多目的トイレ	1 箇所		



地下送迎場階段・エレベーター

1. 福山駅前広場整備の歴史

福山市駅南地下送迎場



2. 駅前広場に求められる役割の変化

●駅前広場に求められる役割の変化

一般的に駅前広場は市街地形成や交通体系と深い関わりをもって変化してきました。現在では、都市機能の高度化・多様化に伴い、「交通機能の利便性やサービス向上に対応する広場」や「都市活動の拠点、あるいは都市の玄関口としての情報提供やシンボリックな空間の機能などを併せ持つ広場」、「福祉への配慮に対応できる広場」などへと、その役割が変化してきています。

●福山駅前広場の機能の検証（資料5参照）

2020年度に福山駅前広場の機能検証を行いました。

その結果では、現在の駅前広場には交通結節機能と都市の広場機能はあるものの、利用実態調査やアンケート調査から交通結節機能の改善と都市の広場機能の充実が求められていることが示唆されています。交通結節機能に関しては、鉄道と徒歩、自動車（バス、タクシー、一般車）、自転車などとの乗り継ぎについては一定の利便性を確保しているが、スペースの効率的な活用や安全性の確保には改善の余地があることが見受けられています。

また、都市の広場機能に関しては、現状では人が集い、憩い、くつろぐ場としての空間の不足により、十分な機能を果たせないことが示唆されています。

3. 福山駅周辺の取組

●福山駅前再生ビジョンと福山駅周辺デザイン計画の策定

2018年3月
「福山駅前再生ビジョン」の策定

めざす福山駅前の姿

「“働く・住む・にぎわい”が一体となった福山駅前」

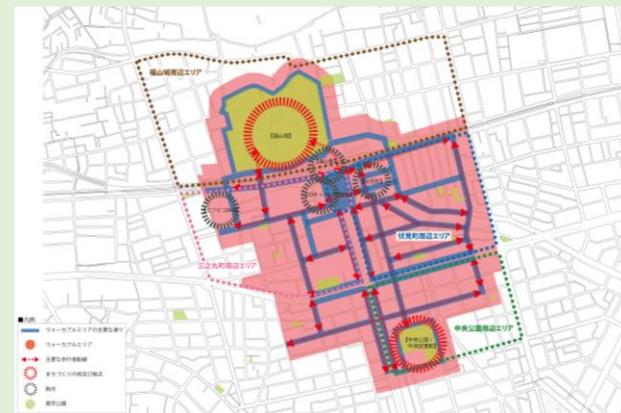


ビジョン実現に向けた基本計画



2020年3月 「福山駅周辺デザイン計画」の策定

「ウォーカブルなまちづくり」
「居心地が良く歩いて楽しい空間」へと転換



3. 福山駅周辺の取組

●ウォーカブルな空間への転換

駅周辺を人や企業を惹きつける魅力あるエリアとするため、公園や広場、通り、建物などの路面階などの空間を一体として「居心地が良く歩きたくなる」空間（ウォーカブルな空間）に変えて行く取組を行っています。

公園を活用した事例（中央公園）



道路を活用した事例（アイネス前の歩道）



3. 福山駅周辺の取組

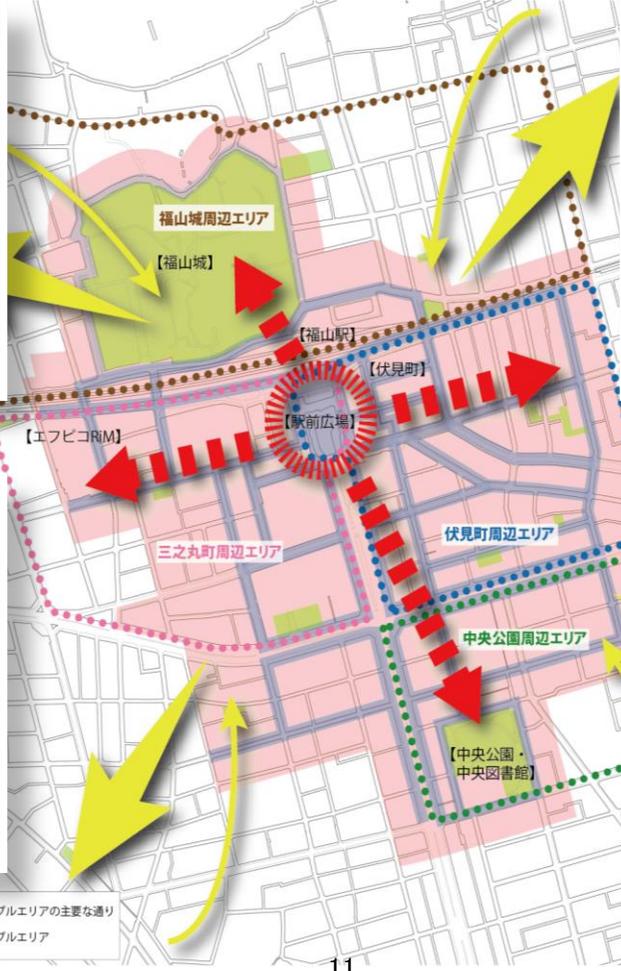
●福山駅周辺のまちの変化

現在、駅周辺では、遊休不動産をリノベーションした店舗や、歩道を活用したオープンテラス営業が相当数オープンしています。昨年閉店したエフピコR i Mは来年4月のオープンに向けて準備が進んでいます。旧キャスパ跡地の再開発も建築工事に着手しました。さらには、中央公園では、図書館の前にガーデンレストランが建てられるなど、新たな民間投資により、まちに変化が起こり始めています。

2022年4月オープン予定



エフピコR i M
の再生



伏見町周辺エリア
リノベーション



2023年度中に完成予定



旧キャスパ
再開発
イメージ

オープン
カフェ

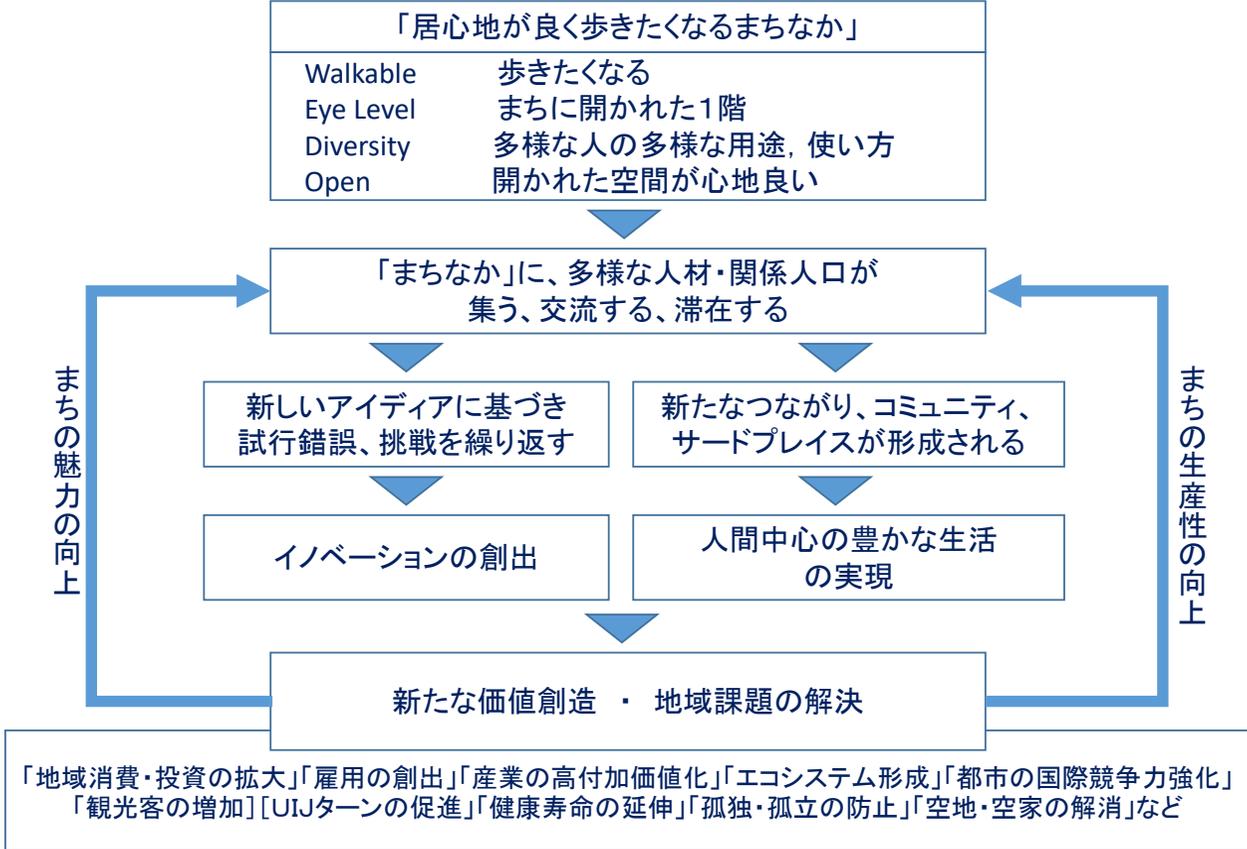


中央公園
中央図書館
P-PFI

3. 福山駅周辺の取組

●ウォーカブルなまちづくりの目的

居心地が良く歩きたくなるような「まちなか」を作ることによって、多様な人材や関係人口が集まり、交流し、滞在することが誘発されます。そこでの出会いや交流から、新しいアイデアに基づくイノベーションが創出されたり、新たなつながりやコミュニティの形成から、人中心の豊かな生活が実現されたりすることが期待されます。そして、消費や投資の拡大、雇用の創出、健康寿命の延伸や孤独や孤立の防止など、様々な価値の創造や地域課題の解決にも結び付き、結果的に、まちの魅力の向上や生産性の向上の好循環を生み出すことがウォーカブルなまちづくりの目的です。



3. 福山駅周辺の取組

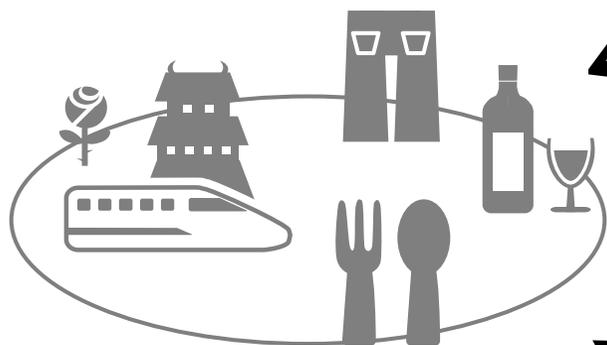
●福山駅前と周辺地域のヒト・モノ・カネ・情報をつなげる

福山駅前と周辺地域のヒト・モノ・カネ・情報がつながることで、相互に経済の好循環を生み出し、市域全体の一体的な発展をめざします。

周辺地域の潜在資源を駅前で福山の魅力として表現・発信しながら、駅前から周辺地域への交通需要も高めていきます。

福山駅前

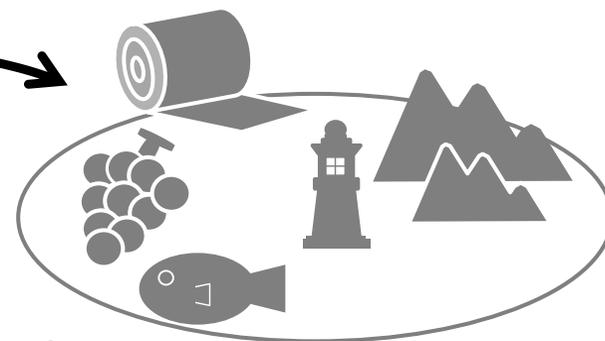
周辺地域の潜在資源を福山の魅力として表現・発信する



周辺地域

(福山市の北部・南部・東部・西部地域など)

周辺地域内の経済循環を活性化



ヒト・モノ・カネ・情報がつながる

周辺地域の潜在資源を発見・活用

交通機能によりつながる

4. 新たな生活様式や社会情勢の変化

●新たな生活様式や社会情勢の変化

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、都市再生においても新たな課題が顕在化し、密の回避等、都市活動に様々な影響が発生しています。都市政策の方向性としては、人や機能等を集積させる都市そのものの重要性に変わりはなく、ウォーカブルなまちづくりなどの推進は重要だと考えられており、新たな生活様式や社会情勢の変化を踏まえたうえで、今後の都市政策の方向性を検討していくことが必要とされています。

- 従来から推進してきた都市再生に加え、今年度の都市再生基本方針においては、**頻発・激甚化する自然災害への対応や人口減少、少子高齢化、社会経済の多様化への対応を目的に安全で魅力的なまちづくりの推進を目指す**こととしていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、改めて今後の都市再生のあり方について検討することが必要である。
- 新型コロナウイルス感染症の影響や人々の意識は時間の経過に伴い変化してきているが、本懇談会においては、今後人々が目指す働き方や住まい方、生き方を実現するための受け皿として、**都市再生に求められる役割や都市そのものに求められる機能等**について議論を深めていきたい。

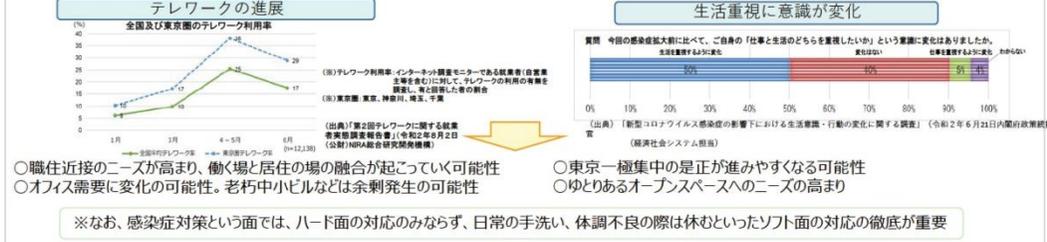
都市再生に関する基本的方針（抜粋）		
※赤は都市の規模にかかわらずのもの。緑は主に大都市におけるもの		
都市のコンパクト化の推進	産業の競争力向上	質の高い生活の確保
子どもを育てやすい環境整備	居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり	災害に強いまちづくり
環境負荷の低減と自然との共生	スマートシティの推進	国際競争力の強化
都市間・都市内の相互連携と役割分担の強化	海外の高度人材を呼び込む 質の高い生活環境の確保	等



社会や生活において新型コロナウイルスが与えた影響を踏まえた今後の都市再生の方針整理が必要

出典：都市再生有識者懇談会資料（内閣府地方創生推進事務局）

■新型コロナ危機を契機とした変化



- 職住近接のニーズが高まり、働く場と居住の場の融合が起こっていく可能性
 - オフィス需要に変化の可能性。老朽中小ビルなどは余剰発生の可能性
 - 東京一極集中の是正が進みやすくなる可能性
 - ゆとりあるオープンスペースへのニーズの高まり
- ※なお、感染症対策という面では、ハード面の対応のみならず、日常の手洗い、体調不良の際は休むといったソフト面の対応の徹底が重要

・感染拡大防止には「三つの密」（密閉・密集・密接）の回避が重要
 ・感染拡大防止と社会経済活動の両立を図ることが重要
 ・都市の持つ集積のメリットは活かしつつ、「三つの密」の回避、感染拡大防止と経済社会活動の両立を図る新しいまちづくりが必要

■今後の都市政策の方向性

- ヒアリングを踏まえれば、人や機能等を集積させる都市そのものの重要性に変わりはなく、国際競争力強化やウォーカブルなまちづくり、コンパクトシティ、スマートシティの推進は引き続き重要。こうした都市政策の推進に当たっては、新型コロナ危機を契機として生じた変化に対応していくことが必要。
- 大都市は、**クリエイティブ人材を惹きつける良質なオフィス、住環境（住宅、オープンスペース、インターナショナルスクール等）、文化・エンタメ機能等を、郊外、地方都市は、住む、働く、憩いといった様々な機能を備えた「地元生活圏の形成」**を推進
 - 大都市、郊外、地方都市それぞれのメリットを活かして魅力を高めていくことが重要
 - 様々なニーズ、変化、リスクに対応できる**柔軟性・冗長性を備えた都市**が求められる
 - 老朽ストックを更新し、ニューノーマルに対応した機能（住宅、サテライトオフィス等）が提供されるリニューアルを促進
 - 郊外や地方都市でも必要な公共交通サービスが提供されるよう、**まちづくりと一体となった総合的な交通戦略**を推進
 - 自転車を利用しやすい環境の一層の整備が必要
 - 街路空間、公園、緑地、都市農地、民間空地などまちに存在する**様々な緑やオープンスペースを柔軟に活用**
 - リアルタイムデータ等を活用し、ミクロな空間単位での動きを把握して、平時・災害時ともに過密を避けるよう**人の行動を誘導**
 - 避難所の過密を避けるための**多様な避難環境の整備**



出典：新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（国土交通省）

5. 新たな移動サービスの台頭

●新たな生活様式や社会情勢の変化

デジタルテクノロジーの進展により、新たな移動サービス（グリーンスローモビリティ、AIオンデマンド交通、自動運転、MaaS等）が台頭してきており、まちづくりとの連携が求められています。



●福山駅周辺新モビリティサービス実証実験 実施期間 2021年11月～2022年1月

- ・ グリスロ運行（2ルートを30分毎に交互に運行）
- ・ スマホやタブレットで、リアルタイム運行情報案内
- ・ setowaによる店舗クーポン等発行



6. 福山駅前広場協議会の開催

●福山駅前広場協議会の開催について

駅前広場に求められる役割が変わってきたことや駅前広場と駅周辺を一体としてウォークアブルな空間に転換することをめざしていることから、現在の福山駅前広場の問題点や課題が何かを考えていくため、駅前広場の検討に着手します。

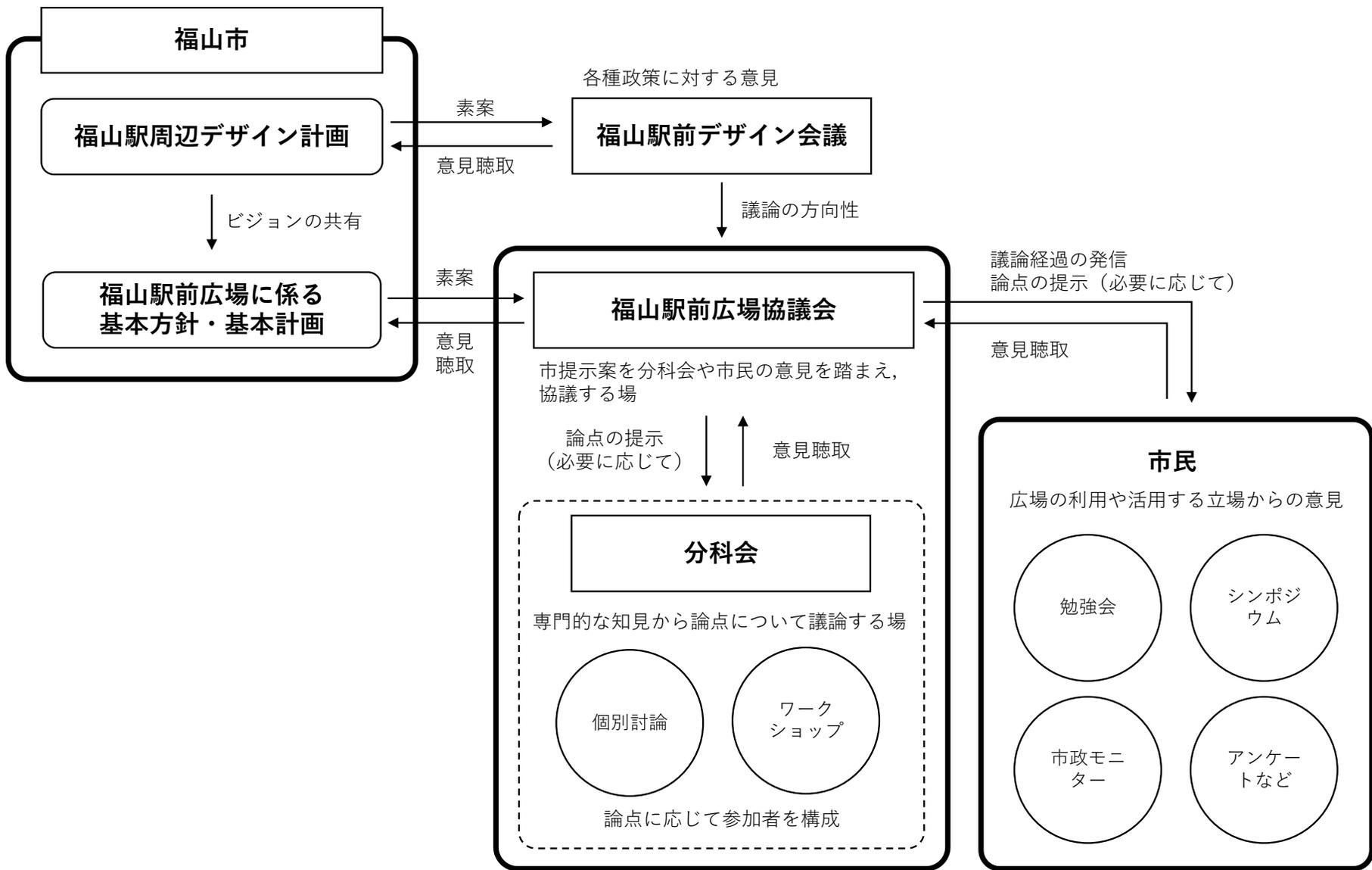
検討にあたっては、新たな生活様式や社会情勢の変化、新たな移動サービスの進展など、10年後、20年後といった先を見る視点が必要になります。

駅前広場には交通事業者や地域関係者、行政などの多くの関係者が存在するため、多様な関係者から幅広い意見を聴き取りながら、検討を進めることが大事になります。

福山駅前広場に関係する多様な関係者から幅広い意見を聴取するため、福山駅前広場協議会を開催します。

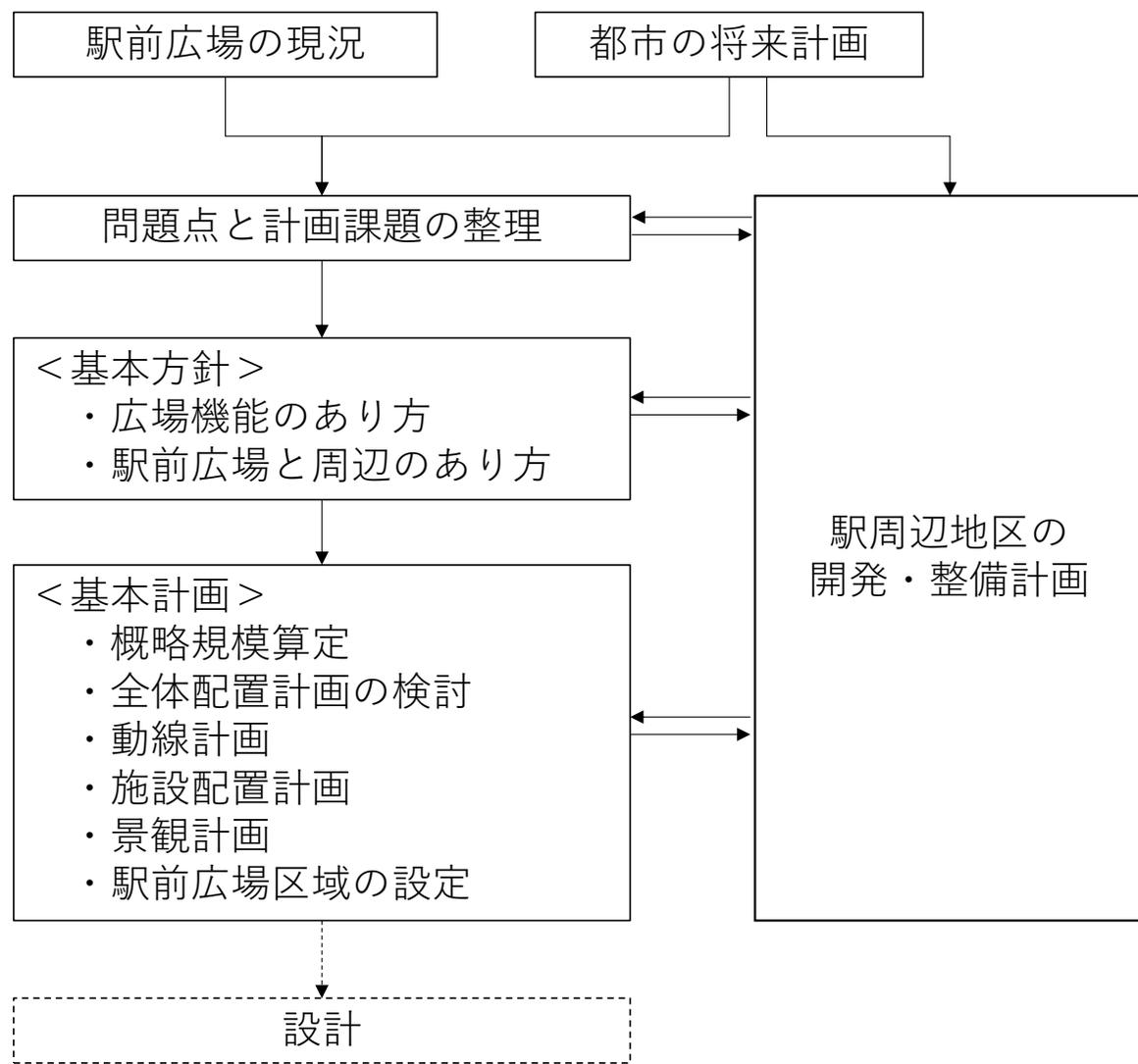
7. 福山駅前広場協議会の進め方

●福山駅前広場協議会の枠組み



7. 福山駅前広場協議会の進め方

●一般的な駅前広場の計画手順



参考：「駅前広場計画指針」

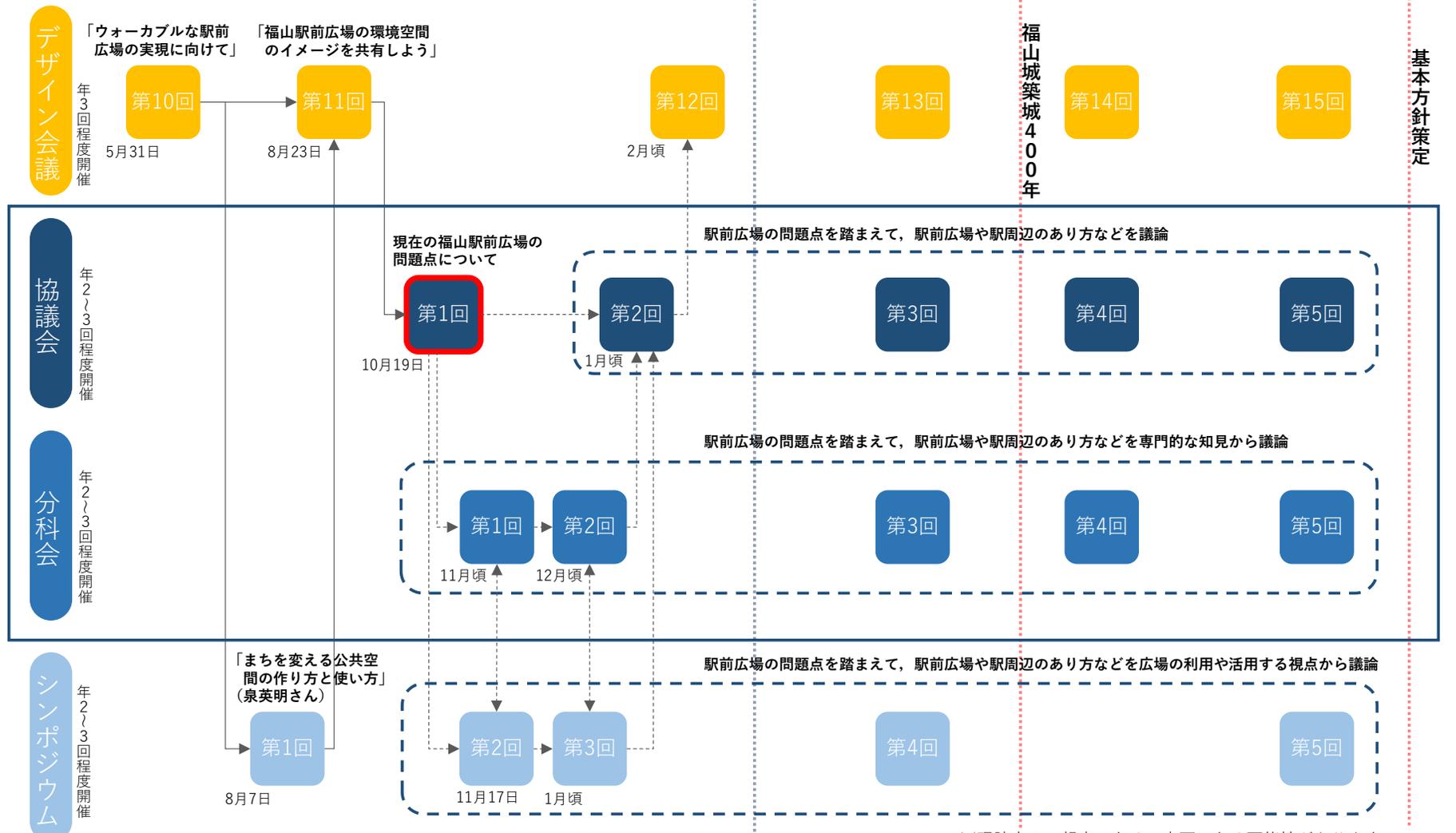
7. 福山駅前広場協議会の進め方

●基本方針策定までのスケジュール

2021年度（令和3年度）

2022年度（令和4年度）

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



※現時点での想定のため、変更になる可能性があります。

7. 福山駅前広場協議会の進め方

●基本方針の検討内容

駅前広場計画を進めるうえで最も重要なことは、計画条件を踏まえ、都市における駅前広場の位置付けを正しく認識し、計画の基本方針を明確にすること。基本方針として検討すべき内容としては、次のようなものが考えられる。

①広場機能のあり方

駅前広場は鉄道利用者のバス乗換えやタクシー乗換えなどのターミナル交通を処理する「交通空間」としての役割をもつ一方、買物客や待合せなどの人々の交流や都市の景観形成などの「環境空間」としての役割を担う施設である。

「広場機能のあり方」では、都市計画、交通計画などにおける駅前広場の位置付けを把握するとともに、現況調査によって駅前広場利用者や利用形態からみた駅の特徴を把握し、**駅前広場に求められている「交通空間としての機能のあり方」と「環境空間としての機能のあり方」を明確にする。**

②駅前広場と周辺のあり方

駅前広場計画の検討にあたっては、**駅前広場区域のみの計画にとどまらず、将来の駅周辺の計画を見据えることが必要**である。駅周辺の土地利用、都市施設、交通施設、鉄道・駅舎計画などと十分な整合を図りながら一体的に検討する。

具体的には、**駅前広場と周辺交通計画のあり方、駅周辺に求められる機能を駅の南北、あるいは駅前広場区域内と周辺施設のどちらに配置するかといった役割分担、動線計画の考え方、立体利用の条件などを個別施設の配置検討に先立って整理する。**

7. 福山駅前広場協議会の進め方

●基本方針の検討内容

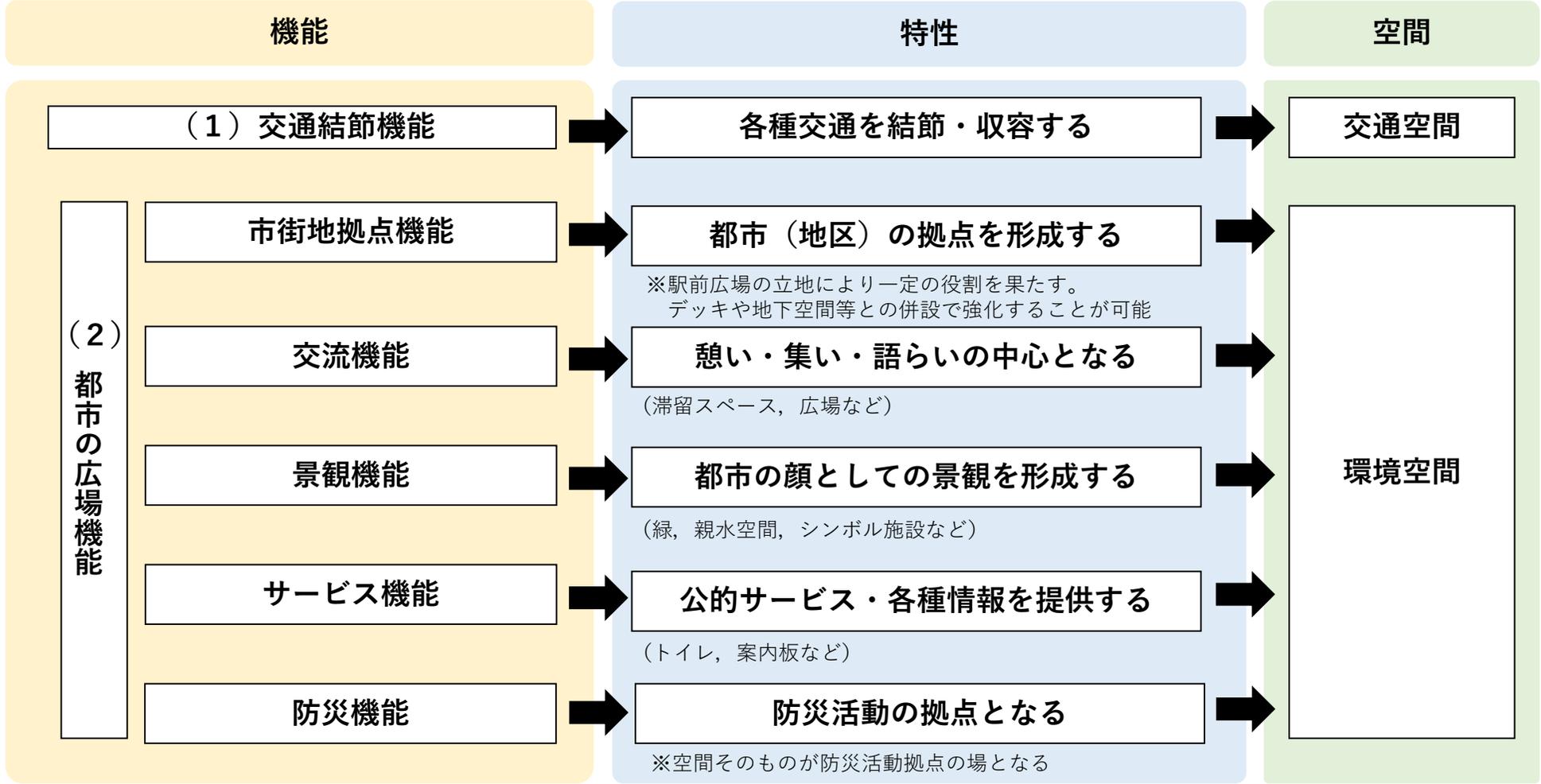
1. 広場機能のあり方	(1) 交通結節機能	車道
		歩道
		路線バス（乗降場・待機場）
		タクシー（乗降場・待機場）
		一般車送迎（乗降場・待機場）
		長距離バス（乗降場・待機場）
		自転車（駐輪場）
		駐車場（パークアンドライドなど）
	(2) 都市の広場機能	市街地拠点機能
		交流機能
景観機能		
サービス機能		
防災機能		
2. 駅前広場と周辺のあり方	(1) 駅周辺に求められる機能の配置	
	(2) 駅前広場と周辺交通計画のあり方	
	(3) 動線計画の考え方	
	(4) 立体利用の条件	

参考：「駅前広場計画指針」

7. 福山駅前広場協議会の進め方

●基本方針の検討内容

1. 広場機能のあり方



※括弧書きは代表的な施設

参考：「駅前広場計画指針」

7. 福山駅前広場協議会の進め方

●今後のスケジュール

2021年度（令和3年度）協議会設置，基本方針（案）検討

2022年度（令和4年度）基本方針の策定

2023年度（令和5年度）基本計画の策定

2024年度（令和6年度）必要に応じて都市計画決定を変更

2025年度（令和7年度）以降 調査，設計，施工

8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

第9回福山駅前デザイン会議を開催

〔日時：2021年（令和3年）2月18日（木）10時00分～12時00分〕
〔場所：福山市役所 60会議室（オンライン開催）〕

今回のデザイン会議は、福山駅周辺デザイン計画の更新とウォーカブルな福山駅前広場のあり方について議論を行いました。

今年度はコロナ禍という非常に厳しい状況ではありましたが、道路占用許可の特例や、国家戦略特区の指定による、道路空間を活用したテラス営業の実施など、社会の状況に柔軟に対応しながら、着実に官民連携でデザイン計画を推進してきました。

また、広島県内で初めて都市再生推進法人に指定された「株式会社築切家守舎」が新たにデザイン会議の構成員に加わり、官民連携の体制が強化されました。



福山駅周辺デザイン計画の更新について

1 デザイン性のある公共空間の設計

- 居心地が良く歩きたくするまちをどのようにつくるかを考えなければいけない。道路構造令などに基づいたこれまでの設計方法だけではなく、デザイン性のことも含めて設計しなければいけない。

2 一人でも居心地が良いと感じるプライベートな公共空間

- 広場はたくさんの人が集まるといった認識で一般的に設計されるものだが、居心地の良さに対する価値観は人によって違うため、一人で利用しても居心地が良いと感じる空間づくりを検討しなければならない。

3 コロナ禍に対応した取組

- コロナ禍で3密を防ぐことが求められている中、道路空間を活用したテラス営業の実施などをすることで、3密を防ぎながら、新しい生活様式に対応したにぎわいづくりを行っている。今後も、社会の状況に柔軟に対応しながら、駅前再生を止めることなく、推進していく。

4 関連性の維持

- デザイン計画では様々な官民連携の事業が複線的に取り組むこととされている。今後大事なことは、これらの事業の関連性を維持しながら推進し、事業効果を高めることだ。

ウォーカブルな駅前広場のあり方について

1 人が集い、憩い、くつろぐための空間の考え方

- 社会の変化とともに、公共空間に求められる役割が変わってきている。今後は、交通結節機能を強化しながら、人が集い、憩い、くつろぐための機能を確保する必要がある。駅周辺の民間の開発やリノベーション、駅前広場のそれぞれが自分の敷地のことだけを考えて計画するのではなく、周辺のまちと有機的に連携する考え方が大事だ。
- 福山駅は福山城の中に作られた駅だ。新幹線を降りたら、お城の中に降り立ったという印象を与えることが大事だ。駅の北側にある福山城から駅の南側までを一体的につなげる考え方が大事だ。
- 福山の都市核として、多様な人材の集積や交流の機会を充実させることによって、福山に対する魅力を高めていく考え方が大事だ。
- 安心感や躍動感、居心地の良さを感じられる空間をつくることで、福山に住んでいる人や福山を訪れた人のまちに対するイメージを変えて行くことが大事だ。

（次頁に続く）

8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

ウォーカブルな駅前広場のあり方について（続き）

2 交通結節機能の考え方

- 今は時代の変わり目にあるため、20年後、30年後といった先を見る視点が大事になる。近い将来、車を使わない人が増えてきたり、自動運転が実現したりするだろう。将来の事を正確に予測できない中で、状況の変化に柔軟に対応していくためには、実験を繰り返しながら、計画を検討する考え方が大事だ。
- 駅周辺と郊外の魅力をどうやって高めていくかを総合的に考えていかなければならない。駅前に訪れる人を増やすと同時に郊外の魅力を高めることによって、駅前と郊外間の交通需要を増やし、公共交通の利用者を増やすという考え方が大事だ。
- 車でのアクセスが多いため、駅周辺には駐車場が必要。駅周辺の事業者が個々に駐車場を有するのではなく、駐車場を集約していく考え方が大事だ。

3 官民連携の考え方

- 民間が公共空間を活用して得た収益をまちに還元することで、エリアの価値を上げていく考え方が大事だ。
- 駅前広場は作って終わりではない。市民に愛され続ける駅前広場をどのようにつくっていくかを議論しなければならない。民間の動機や情熱を大事にしながら、官民の役割と官民が連携する部分をはっきりさせることが大事だ。

4 ウォーカブルエリアの考え方

- ウォーカブル政策では、人々がより健康に過ごせることが大事なテーマになるだろう。居心地の良い公共空間をつくり、歩く人が増えることによって、人々が健康に暮らせるようになるという考え方が大事だ。
- 都市化とともに地域内でのコミュニケーションが減ってきている。コミュニケーションの減少は人々の心の病を生むことにもつながるだろう。コミュニケーションの活性化をテーマにして、毎日街中で楽しく会話ができる公共空間を増やしていくことが大事だ。

公共空間を活用した取組を推進するにあたって注意する点

1 ガイドラインの作成

- 広告物の場合は内容やデザインのルールを定めたガイドラインが必要だ。ルールが無いと、不適切な広告が氾濫したり、バラバラなデザインによって統一感の無い印象を与えることになる。

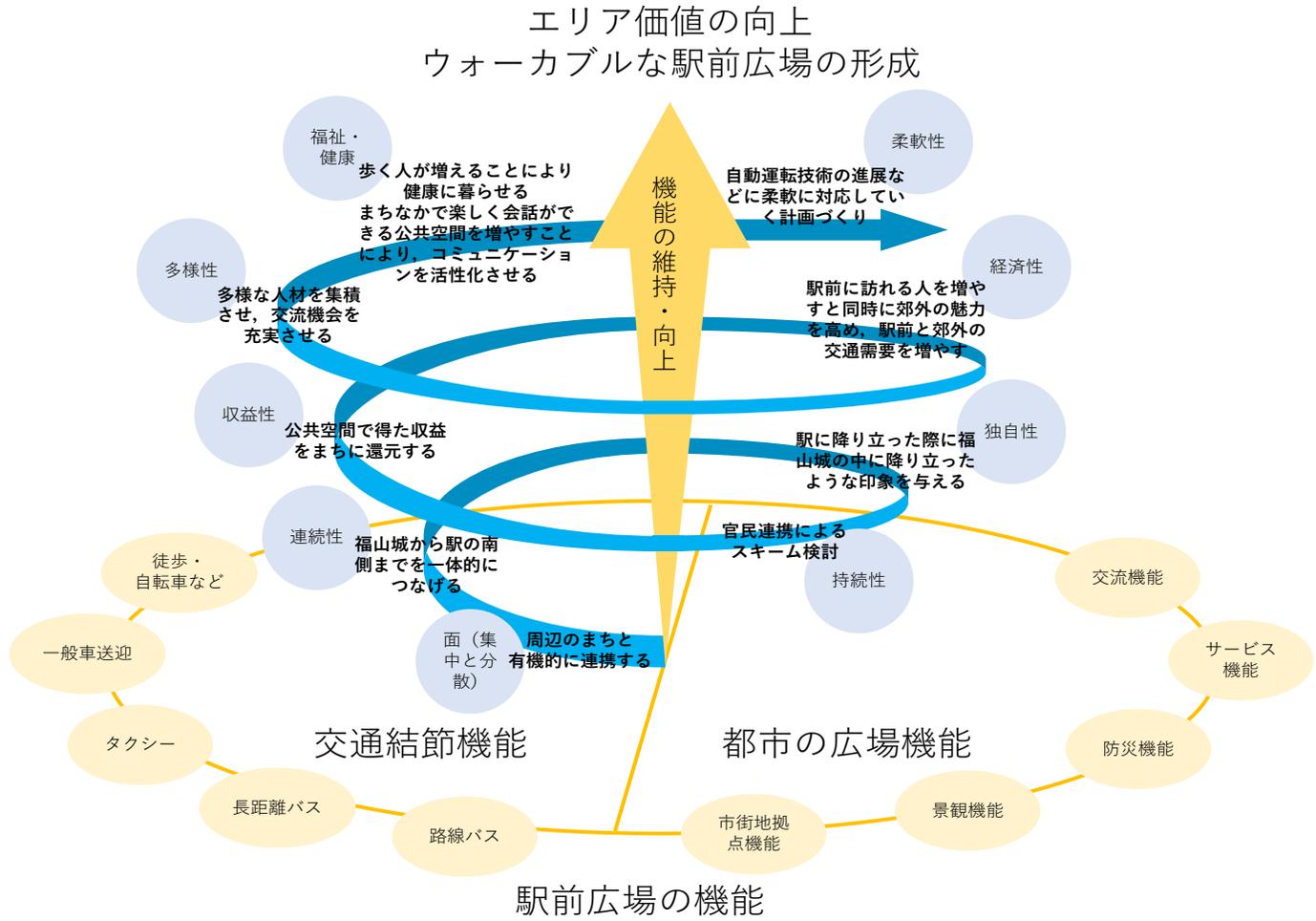
2 投資するものを決める

- エリアの将来を議論をしながら、公共空間を活用して得た収益を何に投資していくかを決めることが大事だ。その際、公共空間を活用して収益を上げる以上、会計は明瞭でなければならない。収益がどのように使われて、どのような効果を生んでいるかを説明する必要がある。

8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

●ウォーカブルな駅前広場のあり方のイメージ

「面（集中と分散）」や「連続性」、「独自性」、「持続性」、「収益性」、「経済性」、「多様性」、「福祉・健康」、「柔軟性」のある計画にすることにより、駅前広場の機能を維持・向上させ、ウォーカブルな駅前広場を形成し、駅周辺のエリア価値を向上させる。



8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

第10回福山駅前デザイン会議を開催

日時：2021年（令和3年）5月31日（月）15時00分～17時00分
場所：福山市役所 60会議室（オンライン開催）

今年度から、駅周辺の変化と連動しながら、駅前広場の検討に着手するため、今回のデザイン会議は、「ウォーカブルな駅前広場の実現に向けて」を議題として議論を行いました。駅前広場は備後圏域の玄関口であるとともにウォーカブルな駅周辺の核となる場所です。この空間を交通結節機能と都市の広場機能が融合する空間へと変えることで、駅周辺への人の流れを生み出し、駅周辺を良質な民間投資を呼び込める魅力とにぎわいのある空間に転換していきます。



ウォーカブルなまちづくりに対して出された意見

- 「ウォーカブルなまちづくり」とは、まちのエリア価値を高め、経済の好循環を生み出し、まちへの再投資を呼び込む好循環を生み出すものだ。
- 全国各地で「ウォーカブルがなぜ必要なのか」を消化できていない。なぜウォーカブルをめざすのかをスタートとする必要がある。市の説明では「ウォーカブルなまちづくりは、良質な民間投資を呼び込む」としている。確かに、ウォーカブルにする前は良質な民間投資は起きにくい。民間は動機がないときや社会状況が悪いときは動かない。今回、ウォーカブルという石を投げ込むのは、膠着した状況に一石を投じる良い機会だ。
- ウォーカブルなまちになれば、世代と属性の多様化・平準化が起きるだろう。若い世代がいなくともまちも途絶えてしまう。多様な属性が存在し、小さな子どもから高齢者までのあらゆる世代が平準化していることが、まちとしての健全な状態である。
- 世代と属性の多様化・平準化が起き、今まで来なかった人がまちを訪れるようになると、そのまちに新しい産業や交通サービスの充実が求められ、新しい未来を考えるチャンスが広がる。例えば、子育て世代が来ると安心・安全な環境が必要となり、そこに商業や経済の再生が連鎖してくる。経済活動が盛んになると、交通需要が増えるので、それに伴って、公共交通が成り立つ好循環が生まれてくる。
- ウォーカブルな空間とは、ただ単に歩行空間を増やすとか、歩く人を増やすというわけではない。ウォーカブルな空間をつくるという考え方は、駅前再生ビジョンが「めざす姿」とする「働く・住む・にぎわいが一体となった福山駅前」を作るということ。以前の会議ではソーシャルディスタンスが必要な時に、「にぎわい」という言葉が適切かという意見に対し、人の数が減っても活動が盛んになる、それがビジョンの「にぎわい」という概念だという議論があった。ウォーカブルなまちとは、活動が盛んになり投資が行われるという、量的ではなく質的ににぎわいをめざすもの。

ウォーカブルな駅前広場の実現に向けた意見

1 福山市民の誇りを駅前で表現する

- 福山市民が誇りに思っていることを駅前で表現することが大事だ。福山市の誇りは、福山城やばら、活躍目覚ましい福山シティFCなどが挙げられる。
- 福山には福山城というコアの存在があるが、鉄道で分断された歴史がある。今回をきっかけに駅の南北で福山城を表現することも大事だ。ばら関連の商品の販売や、バラの色の表現など、福山市の誇りを駅周辺で表現すると良い。
- 駅前には福山市民の誇りを表現する場として、市民の関心を高め、積極的に関わってもらうことや事業者の方々に駅前とつながってもらうことが大事だ。
- まちづくりには、自分たちのまちを自分たちで守り抜くという「パブリックマインド（助け合いの精神）」が大切だ。それに行政が関わるのが公民連携。福山はスポーツや芸術に対して意識が高く、歴史もあるまちなので可能性がある。
- 小道を抜けると広場が広がっていて、日常的に様々に利用されている。そのような人がまちに誇りや自信を持てる広場が欲しい。

2 「ウォーカブルなまちづくり」に対する認知度の向上

- なぜウォーカブルな空間にしていく必要があるのかが見えてこない。ウォーカブルという表現が認知されていない。そういった中で、駅前広場を、なぜウォーカブルな空間にしていけないのかという説明が前提にないといけない。
- ウォーカブルの先の目的について、ウォーカブルは手段だと思うので、行政はウォーカブルな都市を実現してどうなりたいか、どう変わっていくかを宣言すればいい。そこに対しての肉付けというか、目的設定は市民会議や市民ヒアリングを含めて、アップデートしていけばいい。
- ウォーカブルな都市のイメージについて、市民や事業者などの当事者の視点で手応えが感じられる目標像を示し、どういうふう実践していくかを改めて議論してもよい。

（次頁に続く）

8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

ウォーカブルな駅前広場の実現に向けた意見（続き）

3 駅前広場と駅周辺を一体的に検討する

- 駅前広場は、周辺エリアも含めてというのがポイントだ。駅前広場の将来像というよりは駅前広場とその周辺の将来像を検討すべき。
- 今の駅前広場は先進的で機能的に作られた広場だが、社会状況が変化する中で、環境空間が求められてきた。駅前広場のエリアだけで考えると場所が足りないため、ウォーカブルなまち全体が駅前広場であるといった、駅周辺を一体的に検討するという考え方が大事だ。
- 駅前広場のウォーカブルをどうやって実現していくのか。限られたスペースなので、駅周辺の伏見町や三之丸町と協力していくということだと思うが、用途に柔軟性を持たせるのが良い。伏見町や三之丸町にある機能と被らないように全体で設計していくことが大事だ。
- 駅周辺とは何を指すのか対象を明確にすることも大事だ。駅周辺の店舗や道路、駐車場、駐輪場など駅前広場と一体的に検討するものを明確にすることで、関係者の当事者意識が高まってきたり、無関心だった部分に興味がわいてくる。
- 駅前広場があって、その周辺があり、さらに市域全体に広がるような関係性を明確にして、全体を捉えながら、駅前広場を考えることが必要だ。
- 交番の跡地はぜひ広場の計画に連携するようなものを考えていきたい。また、南口だけでなく、北口と南口を一緒に考えて駅周辺を活性化させていく、そのためにはJRの協力が欠かせない。

4 誰に焦点を当てるのか

- 駅周辺を「ウォーカブルな空間に転換していく必要があります」としているが、そもそも誰にとって必要があるかを明確にしたほうがよい。
- 鉄道を近距離で利用する人の目的は、通勤、通学、買い物などで、中長距離となるとビジネスや観光などである。また鉄道を利用しない人も駅前広場を利用している。様々な人が駅前広場を利用しているため、ウォーカブルな駅前広場を考える際には、誰に焦点を当て、どうするのかを総合的に考える必要がある。
- 歩くには目的がいる。駅から広がる動線や駅へ向かう流れに対し、歩きたくなる目的として、魅力の掘り起こしと作り上げの整理が必要。日常的な使い方、様々な広場の使い方のイメージを膨らませていければよい。

5 出合いや交流によるイノベーションの創出

- 駅周辺は備後地域の拠点で都市の核となる場所だ。都市の核となる場所は、ビジネスの拠点を形成することにより、イノベーションを生み出すようなクリエイティブなものが集合・集積する必要がある。
- ウォーカブルな駅前広場の機能や役割として、革新的な取組や予測していないような連携、新たな産業などが生まれてくるようなことが考えられる。そこをめざして広場整備の目標が設定できるとよい。

6 情報発信の必要性

- 多くの人々がイメージを共有できるような具体例を出すことが大事だ。具体例があればイメージを共有しやすく、他の人にも伝えやすい。

7 駐車場の必要性

- ビジネスで駅を利用する場合、車でのアクセス性や駐車場機能の確保が重要。駅周辺での「ウォーカブルなまちづくり」は、ただ単に歩行者の空間を増やすのではなく、「車で来やすく、駐車場にも駐車しやすく、歩いて楽しいエリア」をめざすものだ。
- 小さな駐車場が個別で運営されている状態から、エリア全体で運営されている状態へと変える仕組みがあると良い。例えば、市営駐車場を利用してまちなかの小さな駐車場を無くしたいという方向性がある場合、小さな駐車場を借りて、市営駐車場の利益を分配すれば、少しずつ小さな駐車場を大きな駐車場に集約していくことができる。

8 コロナ禍での空間の形成

- 地下街などの雨がかからない考え方は、コロナ禍で閉鎖的な弱点を抱えていると意識が変化しつつある。そのため外に開放されて雨がかからない空間をどうやって連続させていくかが福山に適している。
- コロナ禍では、まちなかの公共空間と組み合わせ、快適で密になり過ぎない空間を作っていくことが必要。駅前広場の検討では、そういうことも含めてしっかりとデザインをし、ウォーカブルな空間の形成やエリア価値の向上につなげてもらいたい。

9 制度設計の必要性

- まちの美観を確保するなどのエリアのマネジメントをするためには、エリア内の権利者のマインドを一致させることが重要になる。エリアの美観や考え方によって、その権利者が出した利益の一部をまちなかに再投資するといった発想や制度設計が必要になる。
- 民間事業者がまちなかに投資しやすい制度をわかりやすい形につくっていくことが大事だ。

8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

●福山駅前広場デザインシンポジウム

日時：2021年（令和3年）8月7日（土）13:30～16:00

場所：広島県民文化センターふくやま ホール

参加人数：31人（会場），100人（オンライン）

目的

「福山駅前再生」や「ウォーカブルなまちづくり」，「福山駅前広場の検討」の目的の周知を図りながら，駅前広場や駅周辺の公共空間のあり方を市民や事業者の方々と一緒に学び考えるために開催しました。

内容

（1）ガイダンス

「なぜ，福山駅前の再生に取り組んでいるのか」，「なぜ，ウォーカブルなまちに変えていくのか？」，「なぜ，駅前広場の検討を始めるのか？」について，市から説明を行いました。

（2）レクチャー

全国で公共空間のプレイスメイキングなどに取り組まれている泉英明さんにより，単なるハードとしての「場」づくりではなく，人々にとって自由で居心地の良い場所をつくることによって，まちの価値を上げていく取組が紹介されました。

・ゲストスピーカー

泉 英明さん（都市プランナー／有限会社ハートビートプラン代表）

（3）パネルディスカッション

会場やオンラインで参加された方々からのご質問やご意見にお答えしながら，福山駅前広場や駅周辺の公共空間のあり方について，意見交換を行いました。

・ファシリテーター

清水 義次さん（福山駅前デザイン会議座長）

・パネリスト

西村 浩さん（福山駅前再生アドバイザー），泉 英明さん



8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

●パネルディスカッションでの意見交換の内容（全44件の内、一部抜粋）

●バスやタクシー乗場はどうなりますか？

→これから検討していくことになるが、色々な交通が結節して、今よりも便利になることが基本になる。駅前再生の取組は、交通結節だけが目的でなく、福山の人々の暮らしを良くすることをめざしている。商業振興や子育てが楽になるなどの様々な地域課題の解決をめざしながら、交通の乗換えを考えていかないといけない。

●ウォーカブルな駅前にするためには、車社会からの脱却も必要と思うが、なかなか車が手放せないのですが。

→車社会なので、当然、車は手放せない。一定のエリアをウォーカブルなエリアにしていこうという話なので、車で来れないわけではない。車でアクセスしやすい駐車場に停めて、車を降りた後、安全に歩ける空間を作っていくといけない。その際、点在している小さな駐車場の集約や自転車などの交通結節を増やしていくことも大事になる。

●ウォーカブルな駅前になると人々の交流以外に、どのようなメリットがありますか？

→海外の事例では歩行者の増加や売上げの増加、犯罪の減少などの効果があると言われている。また、ウォーカブルな場所ができると子どもやお母さんが訪れるようになる。小さな子どもから高齢者までのあらゆる世代で構成されることがまちの未来につながる。

●福山駅周辺にそこまでのにぎわいが生まれていると思えないが、民間投資と公共投資のどちらが先ですか？

→投資は簡単には起こらない。まずは、市民が公共空間をどう使いこなすかというアイデアを出し、実際に日常的に使い出すと、投資が生まれてくる。まずは、投資の有無に関係なく、公共空間を使う習慣をつくるのが大事。

●福山駅周辺は駅の北側も含めての考えですか？

→もともと福山城があった場所に鉄道を通してあるので、当然、南北を一緒に考えた方がいい。分断されている印象があるだろうが、空間的にはつながっている。空間を使っていくことで南北がつながってくるだろう。

●駅南口に人々が集える場所を希望している市民が多いですが、今の駅前広場を公園のような場所にするという構想は現実的なもの？

→完全にビジョンのような場所になるかは別として、公園のような駅前広場を作ることは可能だと思う。ただし、交通結節は阻害せず、両立させることが大事になる。人が集える広場を希望している人が多いのであれば可能だろう。

●福山駅前は民間企業のマンション建設が先行して、福山市としての都市空間の大きなビジョンが見えてこない。

→現在、福山駅周辺ではビルの建て替えや古い建物のリノベーションなどが起きている。こうした民間投資が起きているのは、駅周辺のこれまでの取組から魅力を感じ、今後良くなるだろうという予感を感じているからだだろう。ビジョンが見える、見えないというよりも、ビジョンを見通す人たちが出てくるということだ。ビジョンは行政が示すよりも、民間がいかに感じ取るかにポイントがある。こうした民間の動きを束ねていくことで福山の新しい魅力につながっていくだろう。

8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

第11回福山駅前デザイン会議を開催

日時：2021年（令和3年）8月23日（月）13時00分～15時00分
場所：福山市役所 301会議室（オンライン開催）

今回のデザイン会議は、駅前広場の環境空間の使い方の方向性を検討するため、「福山駅前広場の環境空間のイメージを共有しよう」を議題として、「福山駅前広場でどのような活動が行われるとよいか」について議論を行いました。

駅前広場計画の検討に当たっては、駅前広場を使う人の意見を計画に結びつけていくプロセスが大事になります。今後、市民や事業者、専門家などのご意見を踏まえながら、駅前広場のあり方を検討し、皆様に愛される駅前広場をめざしていきたいと思えます。



駅前広場での活動のイメージ

1 ちょっとした合間の時間を過ごす

- 公共交通の待ち時間や不意にできた合間の時間を過ごせる場所が必要。そのような時間を駅前広場で飲食を楽しんだり、リラックスしたりしながら、時間を過ごすことができると良い。

2 ゆっくりとくつろぐ

- 福山市内にはゆっくりくつろげる場所があるようで少ない。季節感を感じながらゆっくり過ごしたり、伏見町などの広場周辺の店舗からテイクアウトをして、広場で食事を楽しめると良い。

3 散歩をする

- 駅周辺に住む年配の方々には、散歩をしたいというニーズがあるのではないかと。また、散歩をする際には近所の人達と交流をしたいというニーズもあると思う。駅前広場にベンチなどがあれば、少し座って語らうこともできるだろう。

4 一人で行動する

- 近年、圧倒的に一人で行動する人が増えてきている。コロナ禍が影響しているかもしれないが、現代の人のマインドを考えると、パーソナルな空間が求められていると思う。秘匿性を作りながら、個人がたくさん集積することによってにぎわいが生まれるような社会が生まれるかもしれない。

5 スポーツを見たり体験する

- 競馬場跡地をアウトドアスポーツのメッカにしようと考えている。駅前でスポーツイベントが行われれば、駅前と競馬場跡地が繋がると思う。

6 内外の人と交流する

- 福山には多くの人が出張などで訪れている。外来者と地元の人が飲食などを通して交流できると良い。
- 近年、外国人居住者が増えており、週末には駅前に外国人が集まっているので、多文化共生に資するような活動ができると良い。

7 まちの情報を取得・発信する

- 通勤通学者や出張客はちょっとした合間の時間を楽しみたいというニーズがある。駅前でもちの新鮮な情報が発信されていて、楽しいイベントや面白い店舗があることを伝えることができれば、駅前から駅周辺に誘っていくことができる。
- 市の南部や北部などの周辺地域の方々が駅前に出てきて、マルシェやイベントを行い、周辺地域の情報を駅前で発信するような活動があれば、駅前と周辺地域がつながるきっかけになる。
- 地域の特産品がどうやってできているのかを駅前広場で地元の人を作ったりするプロセスが見えると、市外の人には発見があり、地元の人にも嬉しいと思う。

8 常に新しい情報に出会える

- 駅前広場で色々なことを試してみたり、実験してみたりなど「まるごと実験広場」というコンセプトで括っていくことで、常に新しい情報が発信される場所になるのではないかと。
- 予測できるものだけでは結局その場所には行かなくなってしまう。格好良く働く大人や楽しそうに過ごす若者、異業種・異文化に出会えるなど、思いがけないことに出会える場所になると良いだろう。

（次頁に続く）

8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

駅前広場での活動のイメージ（続き）

9 子どもたちが遊ぶ

- 駅前には子ども達が集える場所が少ないので、子ども達が遊べるような場所ができて、子ども達に来てもらえるような催しやイベントが開催されると良い。
- 駅前にはファミリー層が日常的にくつろげる場所がない。子ども達が駅前広場で遊んでいる間に、親たちが飲食を楽しんだりしながら時間を過ごすことができると良い。

10 ロマンسを感じる

- 地方のまちには都会みたいにコンテンツがたくさんあるわけではないので、デートで行く場所が無く、うろうろしたりする。困った時に駅前広場でコーヒーを飲みながらゆっくり話ができると良い。
- 公共交通で訪れる場合、駅は出会いや別れの場所になる。駅前広場で愛を語ったり、告白をしたり、駅前広場がみんなの思い出の場所になっていくと良いだろう。

11 イベントや祭りに参加する

- 駅前でイベントを実施した際、多くの方が来場され、駅前で常時イベントを開催して欲しいという声が多数あったため、駅前広場でのイベントの需要はあるだろう。
- 駅前で今一番人が集まっているのは、臨時開設しているPCR検査場。その時々の特ピックスに合わせた利用ができると良い。

活動を検討する際に大事になること

1 簡単に駅前広場を使える仕組みづくり

- エリアマネジメント組織などが取り仕切って、一括して申請することで、市民の方々が簡単に使える仕組みが必要だ。

2 天候によらず使いやすいこと

- 半分オープンエアの巨大なアトリウムみたいな施設があれば、雨天であっても、そこで人が集まったり、様々な活動ができる。

3 徐々に活動を広げ、整備を進めていく

- めざす駅前広場はすぐには完成しない。時間をかけながら、徐々に活動内容を広げていき、それに伴って、ニーズを踏まえながら、施設の整備も進めていっても良いと思う。
- 今の社会状況の中で作り込み過ぎたり、固定しすぎるのはリスクがある。なるべく可変性を持ちながら、フレキシブルなスペースをどうつくるかがポイントになる。「丸ごと実験広場」をコンセプトテーマにして、駅前広場でいろいろな実験ができるようにすると良いだろう。
- どのような活動でも行いやすい広場にすることが大事。色々な活動を見越して、電源や上水などの施設が整備されていると良い。
- 従来の考え方に加えて、ちょっと近未来を予測した形で検討することが必要だ。

4 市民に愛され、市民が誇りに感じられる駅前にしていく

- 駅前広場が愛されることを大切にすべき。駅前広場の利用者が交通サービスの受益者だけでは、時間とともに駅前広場の価値が低下してしまう。駅前広場の価値を維持・向上させていくためには、福山らしさを大切にしながら、利用者や地域の人達と共に、この場所を育てていくことが重要だ。
- 駅前広場に当事者として、参画する人の種類を増やす。多くなれば、結果的に仲間や見に来る人も増え、交通需要も増えていく好循環が生まれる。

5 福山城のある北側と福山駅の南側を一体として考えていく

- 駅の南北の広場を一つの広場として考えた方が良い。南北の広場をひと繋ぎの広場にして、どのような空間を作っていくかを検討すべき。
- 連立立体交差事業によって、駅の南北を自由に抜けることができる状況を整えておきながら、その機能がほとんど発揮できていない。駅周辺全体で南北の一体化を図ることを検討すべき。

8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

●計画策定のプロセス

従来のまちづくりは、「計画する→つくる→使う」というプロセスで行われています。

駅前広場の検討にあたっては、これとは逆のプロセスをたどり、駅前広場の具体的な使い方を検討し、それを計画に結びつけていきます。



8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

●福山駅前広場に関するアンケート調査（速報）2021年10月11日時点

1. 調査概要

(1) 調査目的

今後、駅前広場に必要とされる「都市の広場機能」のあり方を検討していくためには、市民の方々が駅前広場でどのような活動をしたと考えているのかを把握し、それを計画に結びつけていく必要があるため、乗り換えなどの移動に関する使い方だけでなく、駅前広場の利用者が駅前広場でしたい活動を把握することを目的として実施

(2) 調査対象

市内外を問わず、誰でも回答可能

(3) 調査方法

Webアンケート（アンケート用紙での回答も可）

(4) 調査期間

2021年（令和3年）9月下旬～12月下旬（予定）

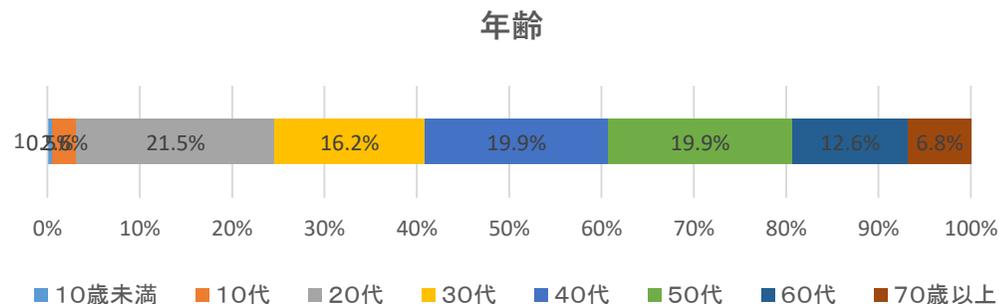
(5) 回答者数

191人

8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

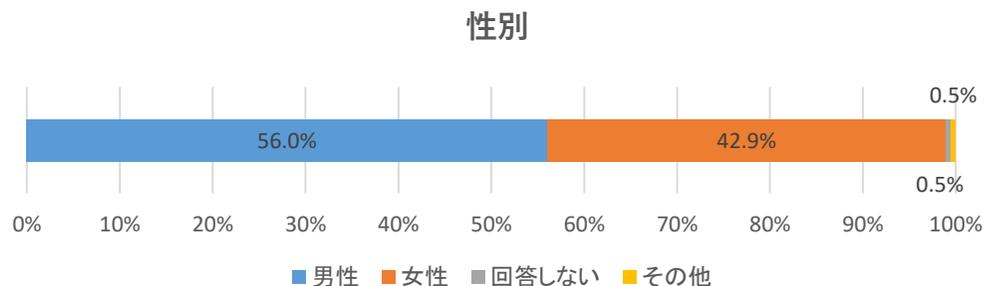
(6) 年齢

選択肢	人数	比率
10歳未満	1	0.5%
10代	5	2.6%
20代	41	21.5%
30代	31	16.2%
40代	38	19.9%
50代	38	19.9%
60代	24	12.6%
70歳以上	13	6.8%
計	191	100%



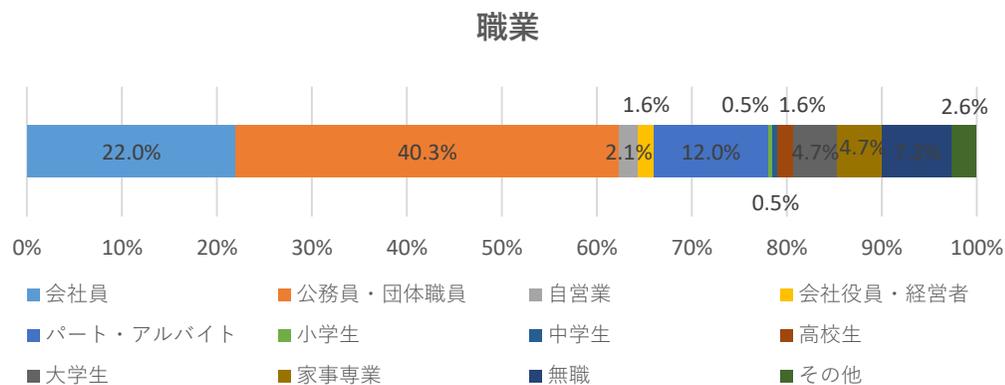
(7) 性別

選択肢	人数	比率
男性	107	56.0%
女性	82	42.9%
回答しない	1	0.5%
その他	1	0.5%
合計	191	100%



(8) 職業

選択肢	人数	比率
会社員	42	22.0%
公務員・団体職員	77	40.3%
自営業	4	2.1%
会社役員・経営者	3	1.6%
パート・アルバイト	23	12.0%
小学生	1	0.5%
中学生	1	0.5%
高校生	3	1.6%
大学生	9	4.7%
家事専業	9	4.7%
無職	14	7.3%
その他	5	2.6%
計	191	100.0%



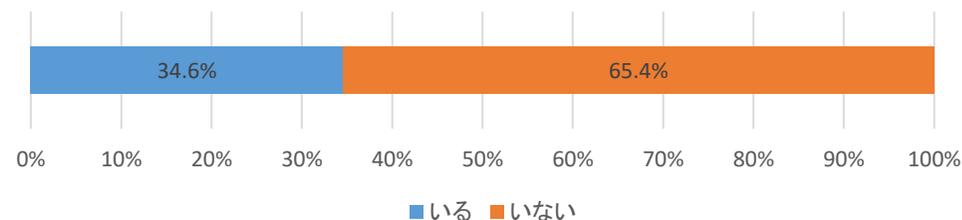
8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

(8) 18歳未満の子どもの有無

選択肢	人数	比率
いる	66	34.6%
いない	125	65.4%
計	191	100%

※18歳未満の子どもが「いる」を選択した人数は、全体から「いない」を減じた数値

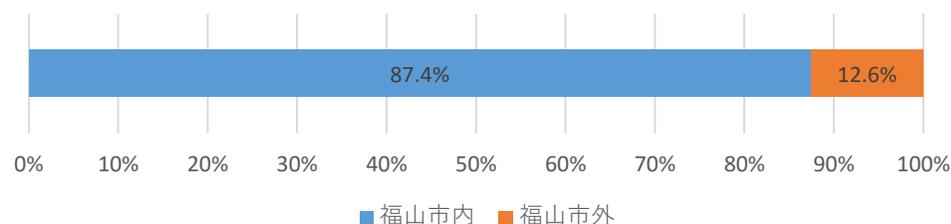
18歳未満の子どもの有無



(9) 居住地

選択肢	人数	比率
福山市内	167	87.4%
福山市外	24	12.6%
計	191	100%

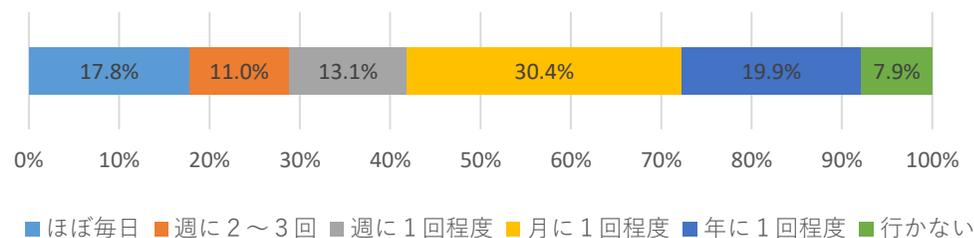
居住地



(10) 利用頻度

選択肢	人数	比率
ほぼ毎日	34	17.8%
週に2～3回	21	11.0%
週に1回程度	25	13.1%
月に1回程度	58	30.4%
年に1回程度	38	19.9%
行かない	15	7.9%
計	191	100%

利用頻度



8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

(11) あなたは福山駅前広場で何がしたいですか (複数回答可)

まちを散歩する



- ・まちをそぞろ歩く
- ・賑わいを楽しみながら歩く

国交省HP ストリートデザインガイドライン
<https://www.mlit.go.jp/common/001230088.pdf>

水や緑に触れる



- ・草や花 (バラ) を観察する
- ・水遊びをする

国交省HP
<https://www.mlit.go.jp/road/sjsaku/dorokeikan/pdf/009.pdf>

買い物を楽しむ



- ・ウィンドウショッピングをする
- ・好みのものを見つける

国交省HP ストリートデザインガイドライン
<https://www.mlit.go.jp/common/001230088.pdf>

常に新しい情報に出会える



- ・色々なことを試したり実験したりする
- ・思いがけないことに出会える

子どもたちが遊ぶ



- ・子どもが遊んでいるところを見守る
- ・子どもと一緒に遊ぶ

マルシェなどを楽しむ



- ・マルシェなどで野菜や鮮魚を買う
- ・福山の特産品を買う
- ・ビアフェスに参加する

休憩をする



- ・ベンチで休憩する
- ・ポーっとする
- ・景色を見るために腰を掛ける

まちの情報を取得・発信する



- ・福山の歴史に触れる
- ・周辺地域の情報を得たり発信したりする

動物に触れる



- ・ペットと散歩をする
- ・犬が走り回っている

人と交流する



- ・外来者と地元の人が交流する
- ・近所の人たちと交流する
- ・異業種・異文化に触れる

国交省HP 官民連携による街路空間再構築・利活用の事例集
<https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001403588.pdf>

スポーツを見たり体験する



- ・サッカーをする
- ・ヨガをする
- ・スポーツを観戦する

イベントや祭りに参加する



- ・お祭り (とんどなど) に参加する
- ・イベント (大道芸など) を楽しむ

リラックスする



- ・寝転がってのんびりする
- ・日陰でくつろぐ
- ・昼寝をする

仕事や勉強をする



- ・外で仕事をする
- ・本を読む

飲食を楽しむ



- ・ランチを食べる
- ・コーヒーを飲む
- ・お酒を飲む

自分を表現する



- ・絵を描く
- ・歌を歌ったり、演奏をする
- ・自分の作品を並べる

ロマンスを感じる



- ・デートをする
- ・恋人と語らう
- ・男女が出会う

野外イベントを楽しむ



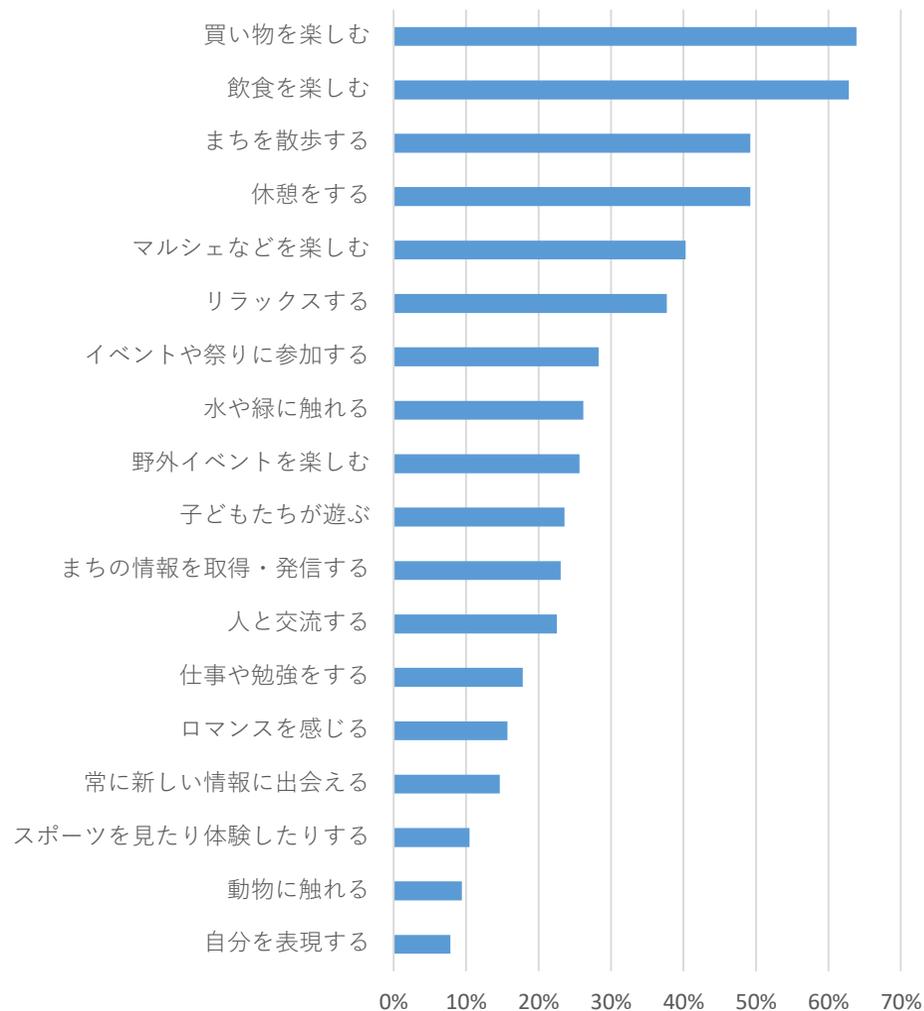
- ・コンサートを楽しむ
- ・映画やパブリックビューイングを見る

国交省HP 官民連携による街路空間再構築・利活用の事例集
<https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001403588.pdf>

8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

(11) あなたは福山駅前広場で何がしたいですか（複数回答可）

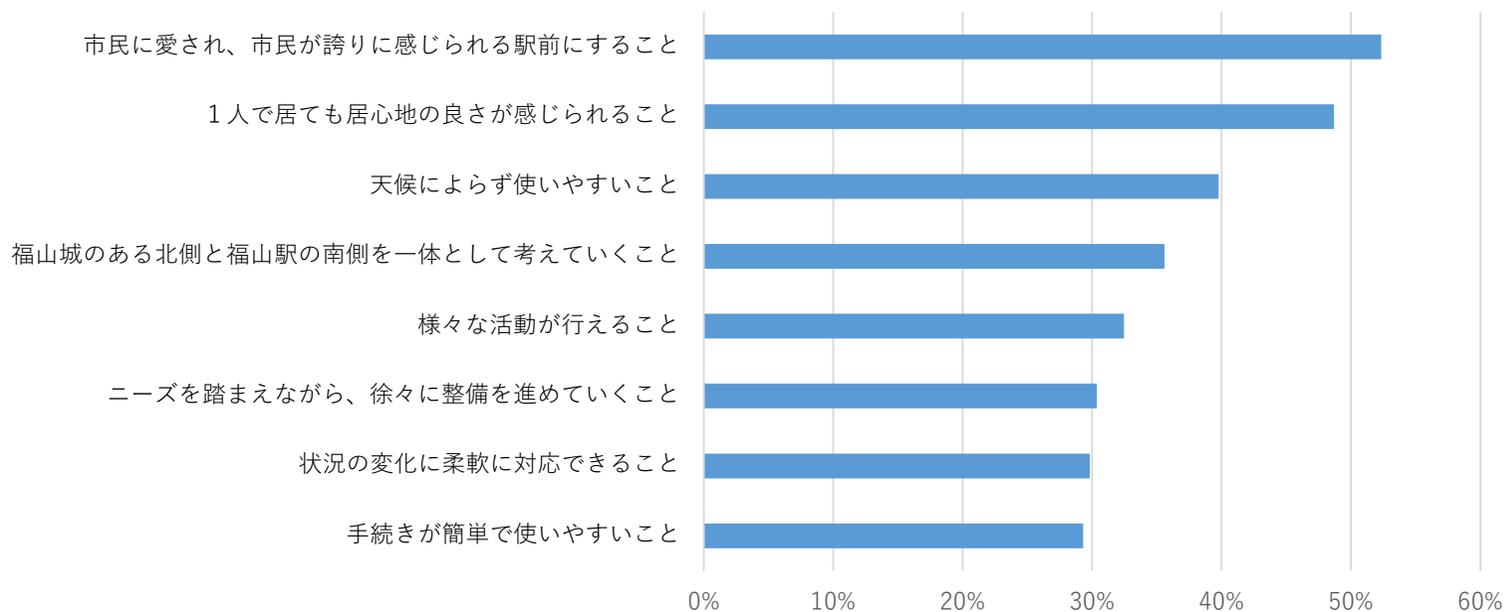
選択肢	票数	票数/回答者数
買い物を楽しむ	122	63.9%
飲食を楽しむ	120	62.8%
まちを散歩する	94	49.2%
休憩をする	94	49.2%
マルシェなどを楽しむ	77	40.3%
リラックスする	72	37.7%
イベントや祭りに参加する	54	28.3%
水や緑に触れる	50	26.2%
野外イベントを楽しむ	49	25.7%
子どもたちが遊ぶ	45	23.6%
まちの情報を取得・発信する	44	23.0%
人と交流する	43	22.5%
仕事や勉強をする	34	17.8%
ロマンスを感じる	30	15.7%
常に新しい情報に出会える	28	14.7%
スポーツを見たり体験したりする	20	10.5%
動物に触れる	18	9.4%
自分を表現する	15	7.9%



8. 福山駅前デザイン会議の議論や市民・事業者などの意見

(12) 今後、福山駅前広場の活用を検討する際に大事になることは何だと思えますか（複数回答可）

選択肢	票数	票数/回答者数
市民に愛され、市民が誇りに感じられる駅前にする	100	52.4%
1人で居ても居心地の良さが感じられる	93	48.7%
天候によらず使いやすい	76	39.8%
福山城のある北側と福山駅の南側を一体として考えていく	68	35.6%
様々な活動が行える	62	32.5%
ニーズを踏まえながら、徐々に整備を進めていく	58	30.4%
状況の変化に柔軟に対応できる	57	29.8%
手続きが簡単で使いやすい	56	29.3%



9. 本日も議論いただきたいこと

本日も議論いただきたいこと

●福山駅前広場の検討を始めるにあたって

☞ 現在の福山駅前広場の問題点について

✓ 駅前広場の何を変えるべきか、何を大切にすべきか、大きいことや小さいこと、どのようなことでも良いので、それぞれの立場で思っていること、感じていることについて意見を聴かせてください。

(参考資料) ・福山駅前広場の機能検証の結果 (資料5)
・福山駅周辺の現状と課題 (次頁)

●今後の議論の内容 (案) ※状況に応じて検討予定

・広場機能のあり方について

☞ 都市の広場機能のあり方、交通結節機能のあり方を議論する。

・駅前広場と周辺のあり方について

☞ 駅前広場と周辺交通計画のあり方、駅周辺に求められる機能を駅の南北、あるいは駅前広場区域内と周辺施設のどちらに配置するかといった役割分担、動線計画の考え方、立体利用の条件などを議論する。

9. 本日ご議論いただきたいこと

●福山駅周辺の問題点について

